

## DXへの警戒心を解く

児童・生徒向けのICT教育のみならず、社会教育、大人の学びとしての、本学の地域貢献の実践「ICTを利用した学び」の発表を契機に、各地における「DXとチェンジ」について意見交換します。



DX (Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション) とは「デジタルによる社会の変革」を推進することです。しかし実際には人々の気持ちの「チェンジ」をどのように動機付けていくのかという課題に直面する声が多く、むしろ「チェンジマネジメント」の重要性が注目されています。既存の価値観や枠組みのなかで変化にどうしても対抗してしまう(将来不安)、今のままでもうまくやっていける(現状肯定)など、人の心がDX化を阻む要因となっています。

2022年

日時

2月21日(月)

15:30~17:30【120分】  
15:15 入室開始

〈RINC話題提供〉

- 高村 茂 (未来デザイン学部 人間社会学科 教授)  
「自治体職員の人材育成を含めたICT教育、自治体におけるDX」
- 木村 尚仁 (工学部 電気電子工学科 教授)  
「ICTを活用したSTEAM教育の実践」
- ◆亘理 修 (短期大学部 自動車工学科 准教授)  
「ICTを活用した新たな学び方—オンライン教育の実践」

※全3回共通のその他プログラムは裏面を確認してください。

## 現世代の私たちが地域文化を表現する・担う

本学の地域貢献の実践である「文化・アート」の発表を契機に、「地域における表現の担い手」について意見交換します。



日本の少子高齢化や過疎化により危惧されることには、地域固有の文化をいかに次世代へ継承するか、そして、地域コミュニティのあり方をどのように考えていくかという課題があります。現代の「地縁」はその地に定住する人に限らず、さまざまな人々の関わり方によって結ばれています。各地の多様な文化は現在どのような担い手によって生まれているのでしょうか。

2022年

日時

2月28日(月)

15:30~18:00【150分】  
15:15 入室開始

〈RINC話題提供〉

- ◆濱谷 雅弘 (未来デザイン学部 人間社会学科 教授)  
「手稲区・江差町・滝川市でのアクティブラーニングとまちづくりの実践」
- 荏原 小百合 (未来デザイン学部 メディアデザイン学科 准教授)  
「シベリア・サハの音楽文化と冬の暮らし」
- 小谷 彰宏 (未来デザイン学部 メディアデザイン学科 教授)  
「北海道鉄道×メディアアーツ展、北海道新幹線×ファンタジーの創造性」

〈ゲストによる話題提供〉

- 出村 沙代 氏 (株式会社たがやす 取締役)  
「みんなで、まだ見ぬ未来を描く技術～グラフィックファシリテーション」

※全3回共通のその他プログラムは裏面を確認してください。

## 未来のために若者を巻き込む

本学の地域貢献の実践である「若者とのチャレンジ」の発表を契機に、まちづくりにおける「大学とオトナの役割」について意見交換します。



「若者のために未来を創ろうとするよりも、若者と創る未来を。」これはルーズベルトの名言をアレンジしたフレーズです。大学には各地から若者が集い、周辺地域は若い人材の転入に恵まれます。一方で、近年各種教育機関では、地域の産業や人々との関わり合いから学ぶ域学連携やアクティブラーニングの取り組みが盛んです。若者(大学生年代・高校生年代)が地域に参画する、何らかの居場所や活躍の場を築くためには、どのような工夫が必要でしょうか。

2022年

日時

3月7日(月)

15:30~17:30【120分】  
15:15 入室開始

〈RINC話題提供〉

- ◆道尾 淳子 (未来デザイン学部 メディアデザイン学科 准教授)  
「若年層の歩く体験とローカル記念日を祝うイベント等企画の実践」
- 坂井 俊文 (未来デザイン学部 人間社会学科 准教授)  
「授業「地域経済論」テーマ:RESASを用いた滝上町・美深町のまち分析」
- 嶋本 勇介 (株式会社あしたの寺子屋 代表)  
「「あしたの寺子屋」、大学生のもう一つのキャンパス」

※全3回共通のその他プログラムは裏面を確認してください。

グラフィックレコーダーをゲストに迎え、ワークショップを記録します。

グラフィックや文字を用いて、ワークショップの内容をリアルタイムにまとめていきます。



出村 沙代 氏 (たがやす 取締役 / ビジュアルプラクティショナー)

専門家同士の議論や、参加型ワークショップ、未来や抽象度の高い話し合いに有効なビジュアルプラクティスを活用した場づくりを行う。組織開発、科学技術コミュニケーション、教育プログラム開発を中心に、チームでの共創を実践する。



田中 友美乃 氏

DX企業のインハウスデザイナー。またビジュアルプラクティショナーとして社内外で活動。協働による価値創出を大切に、これまでヘルスケア、教育、まちづくり、多文化共生のプロジェクトに参画。

内容を可視化！  
理解が深まります。北海道科学大学の  
地域貢献ワークショップ  
オンライン

本学と連携協定を締結する9の地方自治体(手稲区、上富良野町、猿払村、弘前市、幕別町、網走市、小樽市、新ひだか町、根室市)※連携協定締結順)と北海道の関係者や、協定とは別に既に地域連携の実践から繋がりのある自治体・団体の皆様との情報交換や交流を図り、現連携テーマの深化あるいは新規テーマ開拓など連携関係強化を図ります。また、地方自治体間の横の繋がりを図る機会になることを期待しています。

3連続  
シリーズ

# 北海道科学大学の地域貢献ワークショップ

実施方法 オンライン (Zoomミーティング)

参加定員 各回40名

参加方法 各回事前申込制 ※各回開催5日前まで

主催 北海道科学大学、北海道科学大学 北方地域社会研究所 (RINC)

参加対象

本学地域連携協定締結および  
地域連携先の自治体・団体関係者、  
地域貢献の実践に関心のある個人

参加費

無料

## 当日プログラム

120分 ※第02回のみ150分

※担当敬称略

- 1 全体説明 (進行:道尾) 【5分】
- 2 開会あいさつ・研究所紹介 (木村) 【5分】
- 3 ワークショップテーマ説明 (表面◆印のRINC研究員) 【5分】
- 4 話題提供:RINC研究員による研究紹介  
【各回3タイトル×10分、計35分】
- 5 ワークショップ  
(ブレイクアウトルーム利用、進行:RINC研究員) 【30分】  

### ワークショップの実施方法

  - ・当日1グループにつき5~6名に分かれていただきます (最大8グループ)。  
グループ構成は事前申込の内容をもとに実施本部で割り振ります。
  - ・各グループではRINC研究員がファシリテーターをつとめます。
  - ・オンラインのホワイトボード機能利用や参加者タイトル表示の都合上、  
Zoomへのご参加はPCやタブレット端末を推奨いたします。  
事前にマイク・カメラ設定をご確認ください。
- 6 全体ディスカッション (進行:道尾) 【30分】
- 7 グラフィックレコーディングの共有 【5分】  
+第02回のみ:ゲストによる話題提供 【30分】
- 8 閉会あいさつ (木村) 【5分】

Research Institute of Northern  
Regional Community (RINC)

リンク

2015年  
4月設立

## 北海道科学大学 北方地域社会研究所

(2017年4月 地域社会創生研究所から名称変更)



北方地域社会研究所は、北海道をはじめ北方圏の地域社会が抱える諸問題のうち、コミュニティ再生および地域活性化に関わる課題を中心として、人材育成、地域文化、観光、持続可能な社会システムに関する研究を、域学連携 (大学生や大学教員が地域の人々と一緒に地域の問題解決につながる実践活動を行う取り組み) を通じて推進しています。

北海道科学大学北方地域社会研究所の詳細はこちら →  
[https://www.hus.ac.jp/cooperation/ind\\_det/rinc.html](https://www.hus.ac.jp/cooperation/ind_det/rinc.html)



申し込み先

参加希望は **下記フォームから** お申込みください。

GoogleForms

こちらを  
クリック



左のGoogleFormsより下記①~⑥をご入力ください。

- ① 参加希望回 (1・2・3回)
- ② 氏名 (ふりがな)
- ③ 所属・役職
- ④ ご自身の地域貢献の取り組みや関心事
- ⑤ 当日参加用メールアドレス
- ⑥ 当日緊急連絡先 (電話番号)

**申込切 各回開催5日前**

参加者には開催3日前を目処に、Zoomミーティングへの  
接続案内をメール送付いたします。

連絡先

北海道科学大学 地域連携・広報課

E-mail [chiiki@hus.ac.jp](mailto:chiiki@hus.ac.jp)

TEL 011-676-8664

FAX 011-688-2392